

作曲家が語る作曲家

Vol.1

たかの舞俐リゲティを語る

● 企画趣旨 ●

このたびBuncademyでは、独自の音楽世界を構築している優れた作曲家をお招きし、彼らの音楽に影響を与えた作曲家についてお話を伺う、「作曲家が語る作曲家」を新しく企画いたしました。この講座では、単に作曲家が影響を受けた作曲家について語ることに留まるのではなく、該当作曲家に直接作曲を学び、指導を受け、または、その作曲家の友人や同僚として親密に音楽的な交流をした／している作曲家が彼らの師匠または友人についてじっくり語ります。それを通じて、偉大なる作曲家の音楽と音楽思想をよりの確に把握し、より広い視点から深く掘り下げて考えます。なお、レッスンで交わした会話など、一般的には知られていない貴重なお話もお伺いできると思います。最終的には作曲家から受けた影響が、ご自身の音楽にどのような形で浸透され展開され、独創性の確立に寄与したのかについて、譜例や資料などをご提示いただきながら、具体的に語っていただきます。

この企画の第1回目は、個性ある創作活動を展開している作曲家たかの舞俐氏が、彼女の師匠リゲティについて語ります。リゲティ死後10年になる今年、リゲティの音楽について新たなアプローチで考察を深める貴重な機会になると思います。第1回目の講座は下記の通り、2回に渡って行われる予定です。皆様のご関心とご参加を心よりお待ちしております。

1-1.

6月25日(土)14:00 開演 (開場: 13:30)

リゲティが作曲クラスの討論から受けた影響について (微分音など)

1-2.

7月16日(土)14:00 開演 (開場: 13:30)

《ピアノのための練習曲集第1巻》を中心とする和音構造とシムハ・アロムからの影響 (リズムの構想) について

【講師】 たかの 舞俐

【会場】 BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅 東口から徒歩1分)

【住所】 〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番303号

【受講料】 各回 一般 2,000 円 / 学生 1,500

* 2 回通し券 一般 3,500 円 / 学生 2,800 円

【ご予約・お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp

◆ 講師プロフィール

たかの舞俐 (たかの まり) MARI TAKANO

桐朋学園大学作曲科卒業後、国立フライブルク音楽大学大学院でブライアン・ファニハウ教授に、その後ハンブルク音楽大学大学院でジェルジ・リゲティ教授に作曲を師事、1988年修士修了。入野賞、シュトゥットガルト州作曲賞など数々の賞を受賞。師ジェルジ・リゲティとの出会いにより、独自のオリジナリティーによる作風を発展、確立。2002年にスウェーデンのBIS社よりCD「Women's Paradise」をリリース。委嘱作品も多く、作品は国内外で演奏されている。同年、文化庁特別派遣研修員としてノースウェスタン大学に客員作曲家として滞在。桐朋学園芸術短期大学、文教大学講師。2008年、BIS社よりフルートコンチェルトをリリース。2012年1月にはセカンド作品集「LigAlien」をBIS社よりリリース。アメリカCD雑誌「Fanfare」で今年のベスト5にも選ばれた。2014年よりフェリス女学院大学音楽学部音楽芸術学科准教授



たかの舞俐 リゲティを語る：講座の概要

1-1.(6/25) 「リゲティが作曲クラスの討論から受けた影響について(微分音など)」

リゲティはハンブルク音楽大学作曲科で教授として16年間教えていた。私は定年退職前の最後の正規の学生としてそのクラスに参加した。当時のクラスは2週間に1回、リゲティの住まいに門下生が集まり、午後から短い夕食をはきんで夜遅くまで、ほぼ1日ばかりで行われていた。その際、リゲティは学生の実作を見るだけでなく、自作品を学生に示して意見を求めることもあった。また、学生の方も自作品を見せるだけでなく、ジャンルを問わず興味のある好きな音楽を持参してクラスで聞くこともあった。こういったクラス内の討論や情報の交換は、当時のリゲティの作曲にも大きく影響を与えていたように思われる。今日、リゲティに関する研究や文献は数多く存在するので、この講座では、私がクラスで直接見聞きしたことや体験したこと、当時の師の様子などを中心にリゲティの作品について語り、いくつかの作品について分析を行いたいと考えている。

1-2.(7/16) 「《ピアノのための練習曲集第1巻》を中心とする和音構造と シムハ・アロムからの影響(リズムの構想)について」

1980年代以来リゲティが最も興味を持ち影響を受けたのは、民族音楽学者シムハ・アロムの書籍「African Polyphony & Polyrhythm」とコンロン・ナンカロウの音楽だった。私はリゲティが《ピアノのための練習曲集第1巻》を完成したころに作曲クラスに参加し始めたが、当時のリゲティはクラスでもさまざまな講演の折にも、自身がいかにアフリカのリズムに魅せられていたかについて語っていた。また、ナンカロウをハンブルクに招き、自作品を交えてコンサートを行った。当時は《ピアノのための練習曲集第1巻》を満足に演奏できるピアニストはほとんどいなかったため、この作品の完全なパフォーマンスを体験するにはリゲティは長い間待たなければならなかった。このような当時のリゲティの日常的な姿を交えながら、この講座では、主に《ピアノのための練習曲集第1巻》を取り上げて作品分析を行い、そこから見えてくるその後の作風の展開についても論じてみたい。

(文責：たかの 舞俐)